

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-1-031
補助事業名 平成24年度 引きこもり・不登校に関する支援活動 補助事業
補助事業者名 社団法人 青少年健康センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

この事業は、引きこもり状態となっている若者たちが引きこもり状態から抜け出し、家族・友人・ひいてはコミュニティ、更には学校や職場の人々とも交遊し合い、社会への再参加が果たされるようになることを目的としています。

(2) 実施内容

ア・引きこもりを対象とした自立支援事業

◎ “茗荷谷クラブ”

デイケアとして原則週2回、新しい人間関係の中で自信を取り戻すことを目的とした“茗荷谷クラブ”は、臨床心理士などの資格を有するケアスタッフの下でディスカッション、ゲーム、スポーツ・旅行など年間延148回開催。参加メンバー数延1877名。

◎ “若者オーパングループ”

引きこもりから立直りかけている当法人デイケアメンバーのOB達が定期的に参加し、ディスカッション・交流を行い、翌日からの意欲を高め合う“若者オーパングループ”は、ベテランカウンセラーのオーガナイズの下で原則月2回、年間20回開催。参加者数94名。

イ・社会参加支援プログラム開催事業

当法人のデイケア活動のOB達数名を1グループとし、週末、ベテランケアスタッフの指導の下で都心部のオフィスビル内の清掃バイトを遂行する体験を通じ、社会参加への道筋を探りました。実施延回数26回参加メンバー延108名。

ウ・思春期カウンセリング講座

引きこもりの子供をかかえる親(特に母親)並びに地域社会の方々も対象とし、思春期カウンセリングの知識を体得する為の各種講座を開催しました。

・基礎講座：藤堂宗継先生(臨床心理士)を講師に迎え前・中・後期各5回開催、通期6名受講。

・理論講座

前期：“パーソナリティ障害の理解とその対応”は、藤堂宗継先生(臨床心理士)及び津曲恵子先生(臨床心理士)を講師とし4回開催 受講者15名。

中期：“思春期・青年期の発達課題と問題点を考える”をテーマに藤堂宗継先生が5

回の講義。14名受講。

後期：“発達障害”上田順一先生(臨床心理士)が4回の講義。11名受講。

・特別講座

前期：“自尊感情と共有体験～PTG(心的外傷後成長)を視野に入れて”をテーマに、近藤卓先生(東海大学文学部心理学・社会学科教授)が講義。7名受講。

後期：“家族関係援助論”をテーマに、鉅鹿健吉先生(元国立看護大学校教授)が講義。6名受講。

エ. 講演会・シンポジウム

平成24年11月17日、筑波大学東京キャンパスの講義室を会場に、1998年以来、3万人を越える日本の自殺者数の中で、特に若年層の自殺、リストカットに代表される自傷行為にスポットを当て、この分野に詳しい3人の研究者をシンポジストに招き、「自傷と自殺”について考える」と題し、講演会・シンポジウムを開催。70名受講。



2 予想される事業実施効果

一説には100万人とも言われる引きこもりからの脱出、社会再参加は引きこもり年数が長くなるにつれ難しくなります。引きこもり本人たち、親・家族、それぞれが孤立し、行き詰まりを感じることはないように、それぞれの立場にあった活動を展開し、それぞれのペースで社会再参加の道筋を探ることが出来ました。

また支援活動従業者や地域社会の人たちに対し、引きこもりについて、知識の普及啓発を行ったことにより、より広く問題提起が出来たものと考えます。

3 本事業により作成した印刷物等

講座案内1部、講座PR用ちらし4種類及び、講演会・シンポジウムを採録した小冊子

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社団法人 青少年健康センター（セイショウネンケンコウセンター）

住 所： 〒112-0006

東京都文京区小日向4-5-8 三軒町ビル

代 表 者： 会長 齋藤 友紀雄（サイトウ ユキオ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 事務局長 佐藤 彰（サトウ アキラ）

電 話 番 号： 03-3947-7636

F A X： 03-3947-0766

E - m a i l： info-sk@mve.biglobe.ne.jp

U R L： <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~skc>